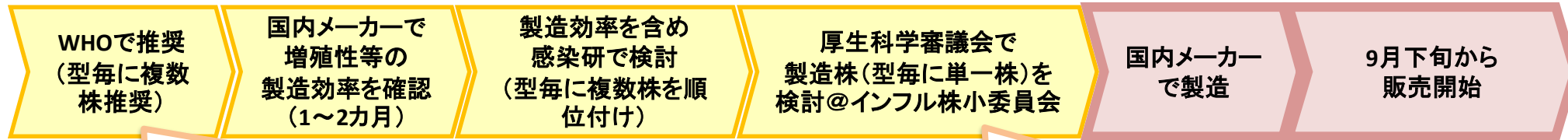


# 2019/20シーズンの インフルエンザワクチンの供給について

# 2019/20シーズン向けインフルエンザワクチン製造株

基本的な流れ



WHOの推奨については、A型H3N2以外では、例年並みの2019年2月21日に公表されたが、A型H3N2の推奨は3月21日まで持ち越された。

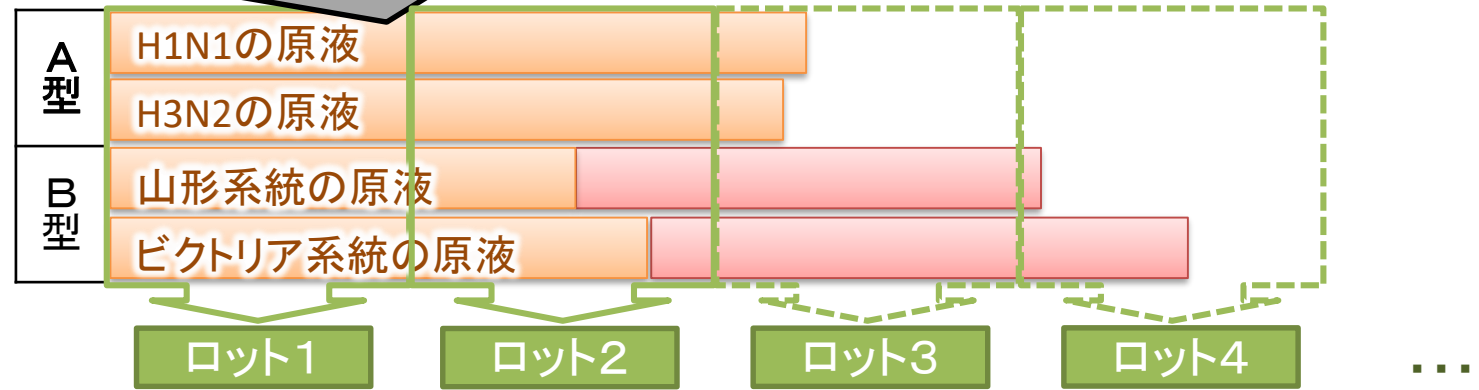
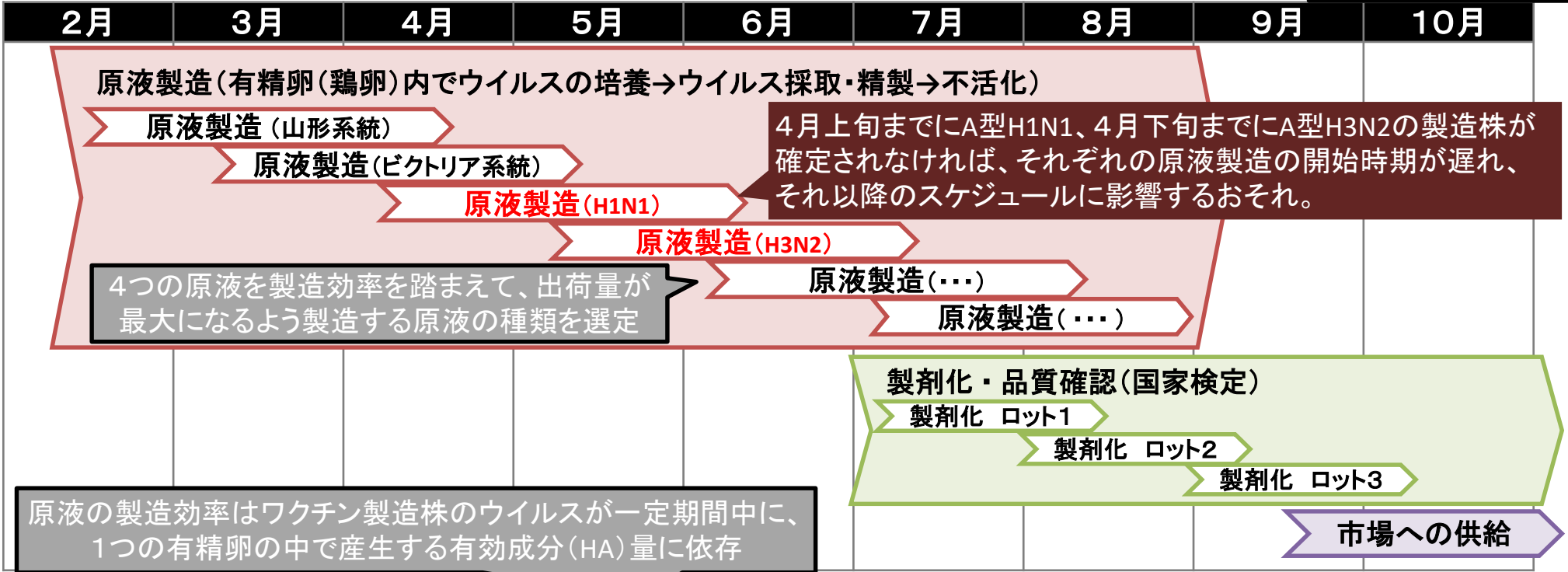
2019年4月8日、4月18日の審議を踏まえ、以下のとおり製造株を決定。

亜型	ワクチン製造株
A型H1N1※	A/ブリスベン/02/2018(IVR-190)(H1N1)pdm09 (2018/19シーズンから変更)
A型H3N2	A/カンザス/14/2017 (X-327)(H3N2) (2018/19シーズンから変更)
B型山形系統	B/プーケット/3073/2013 (2018/19シーズンの製造株と同一株)
B型ビクトリア系統	B/メリーランド/15/2016 (NYMC BX-69A) (2018/19シーズンの製造株と同一株)

※ A型H1N1pdm09(以下同じ)

参考

# ワクチン原液の製造のイメージ

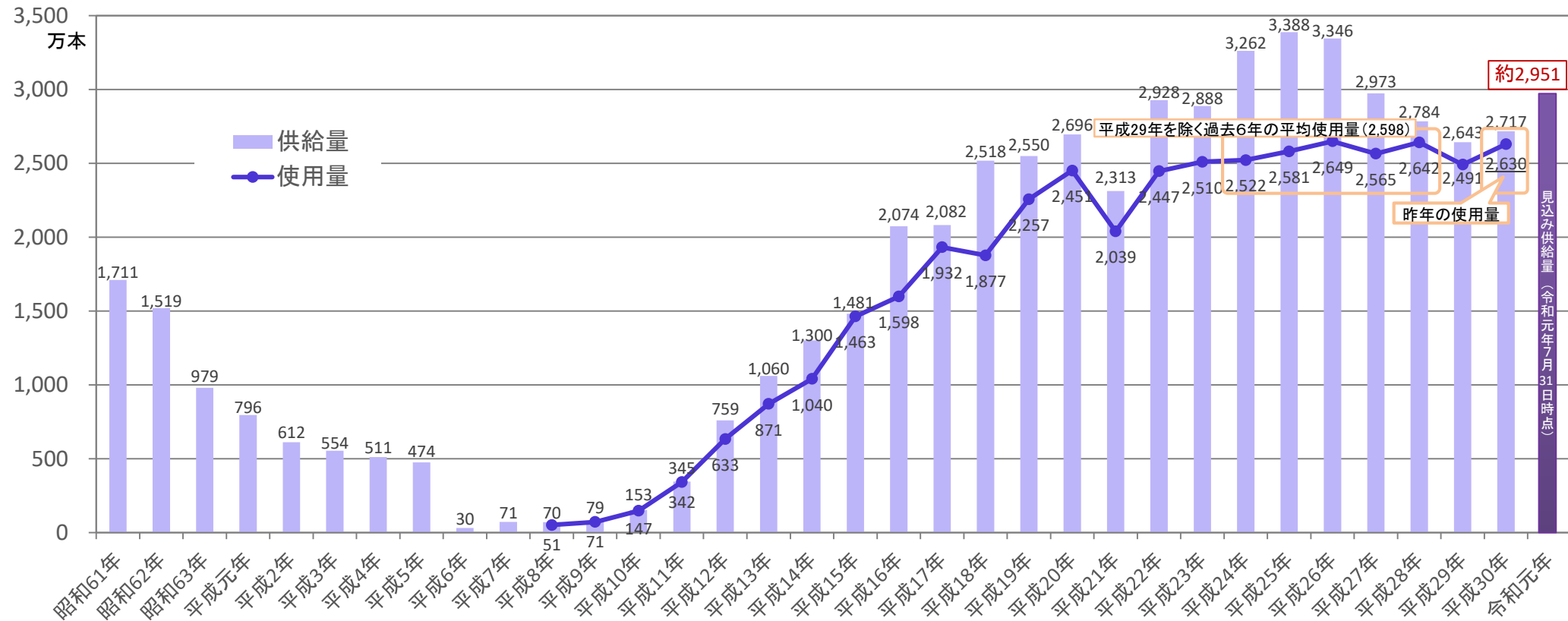


○ WHOのワクチン製造株の推奨が当初より約1ヶ月後倒しになった現状で、その影響を最小限に留めるには、4月上旬までにA型H1N1・B型山形系統・B型ビクトリア系統の製造株を、4月下旬までにA型H3N2の製造株を確定する必要がある。

# 2019/20シーズンのインフルエンザワクチンの供給について（その1）

○ インフルエンザワクチンの見込み供給量（約2,951万本）は、昨年の使用量（2,630万本）や平成29年を除く過去6年間の平均使用量（2,598万本）を上回っている。

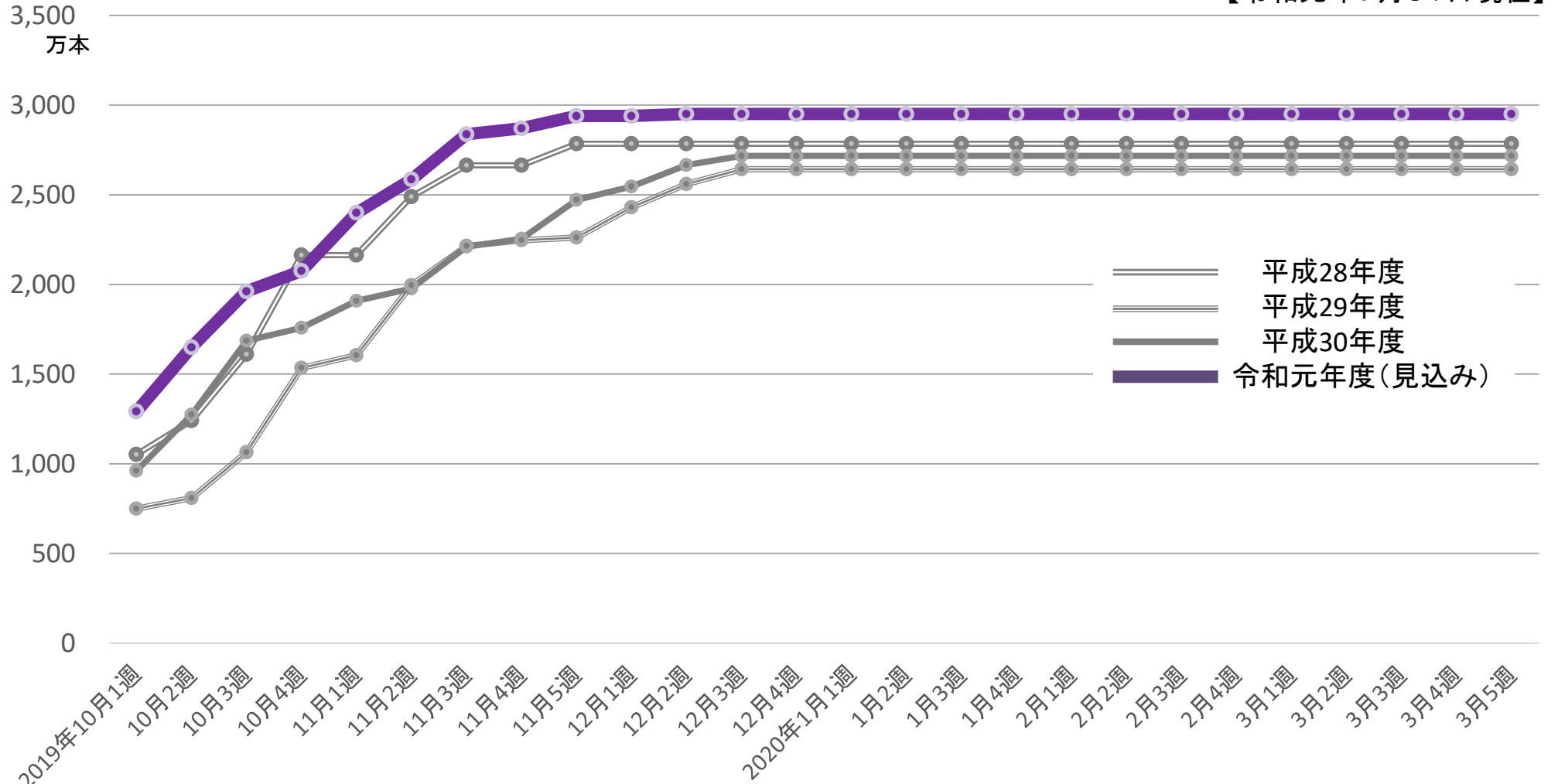
【令和元年7月31日時点】



※1 平成7年以前の使用量は不明 ※2 1ml換算

# 2019/20シーズンのインフルエンザワクチンの供給について（その2）

【令和元年7月31日現在】



注1) 供給量は、いずれも1mL換算。

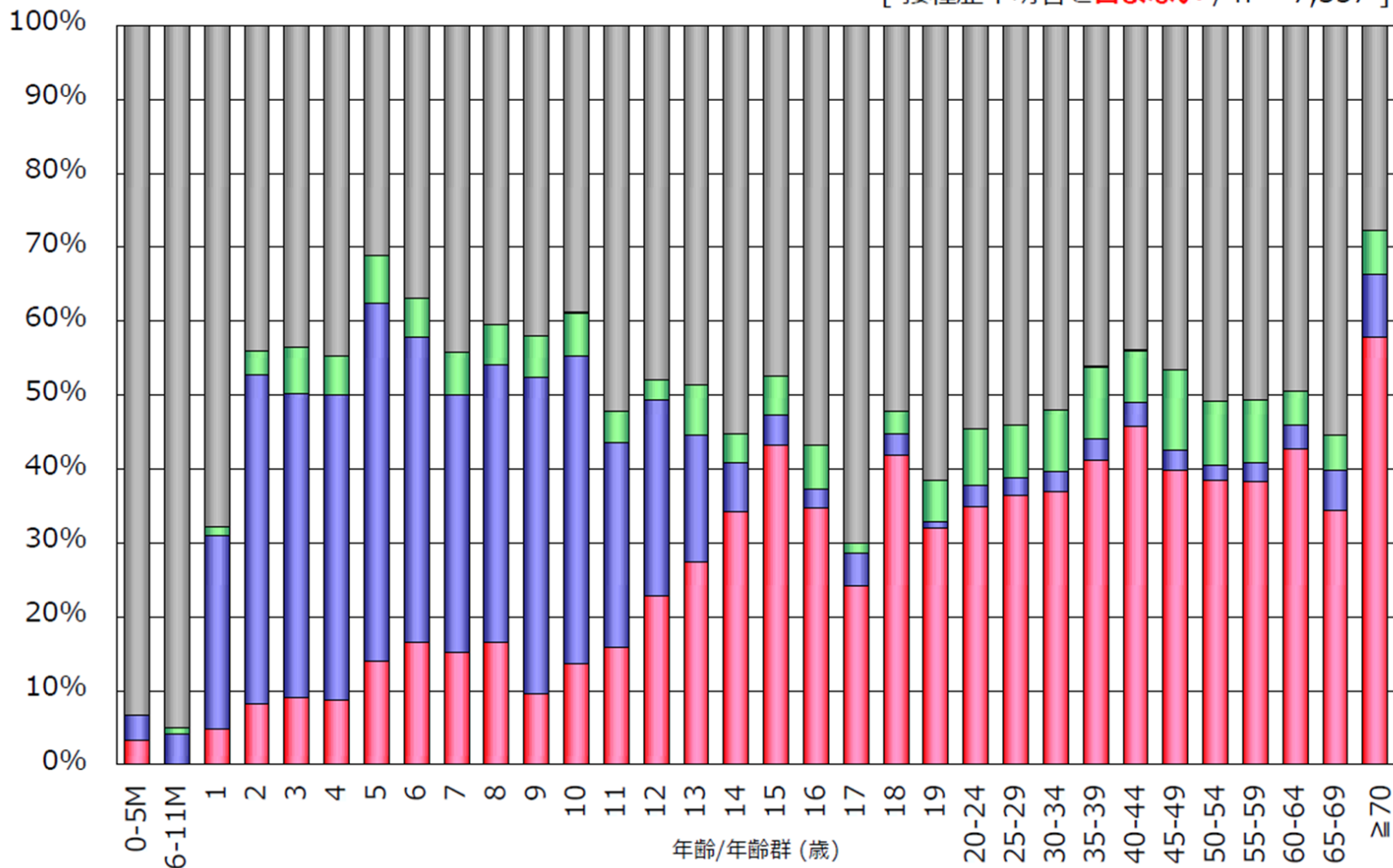
注2) 7月31日現在、ワクチン製造は完了していないため、将来の製造効率の変動や国家検定の影響の可能性については、平成30年度の実績と同様と仮定して供給量及び供給時期を算出。

# (参考) 年齢/年齢群別のインフルエンザ予防接種状況, 2017/18シーズン

～2018年度感染症流行予測調査より～

※1 2019年5月現在暫定値

[ 接種歴不明者を含まない / n = 7,357 ]



■ 1回接種者 [n=2,357]   
 ■ 2回接種者 [n=781]   
 ■ 回数不明接種者 [n=498]   
 ■ 未接種者 [n=3,721]   
 □ 接種歴不明者 [n=997]

出典:

<https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/yosoku/2018/Vaccination/flu2018vaccine.pdf>

# 2019/20シーズンのインフルエンザワクチンの供給にかかる評価と対応

## 今シーズンのインフルエンザワクチンの供給について

- 今シーズンのインフルエンザワクチンの見込み供給量（約2,951万本）は、平成28年度以降、最も多い供給量であり、近年の使用量等から、ワクチンを適切に使用すれば、不足は生じない状況と考えられるのではないか。

## 今シーズンを含む今後の対応（案）

- インフルエンザワクチンの効率的な使用と安定供給を推進するため、昨シーズンと同様に、
  - ① 13歳以上の方は原則 1 回注射としていただくこと
  - ② 必要量に見合う量のワクチンを購入いただくことなどについて医療機関に要請する等の取り組みを継続することとしてはどうか。

## （参考）昨シーズンの対応の概要

- インフルエンザワクチンの効率的な使用と安定供給を推進するため、今後の対応として、2017/18シーズンの対応と同様に、
  - ① 13歳以上の方は原則 1 回注射としていただくこと
  - ② 必要量に見合う量のワクチンを購入いただくことなどについて医療機関に要請する等の取り組みを継続することとした。